

「田形改革必要論」を建白した人

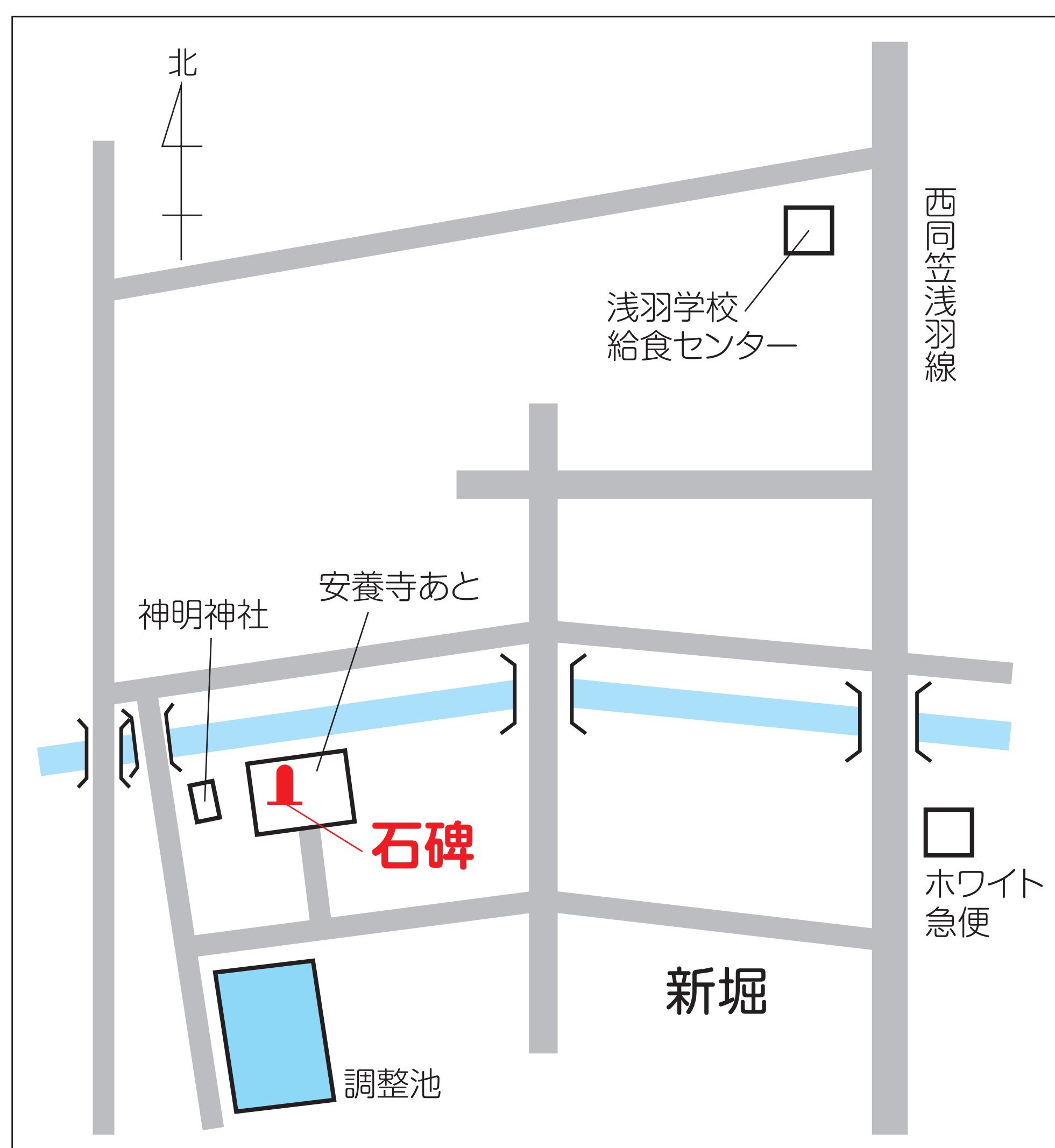


戸塚弥三治

戸塚 弥三治 (1860 ~ 1917)

弥三治は幼にして柴村の高橋東平の塾に通い、柴学校ができると入学した。明治9(1876)年、16歳で新堀村の戸長(村長)になった。明治20(1887)年、田形不整による農事の不便を痛感、全国農村の田畦を十字形に改革すべきことを元老院に建白し、また「田形改革論」を印刷して、全国の有志や各府県会常置委員等に配布した。明治21(1888)年4月、「田形改革必要論」を内閣総理大臣黒田清隆に呈出、「田形改革法案」をこれまた全国へ配布した。明治34(1901)年、弥三治の熱意によって、新堀はついに土地の区画改良を実行し、田27町1反、畑1町9反、宅地2町6反ができあがった。このとき弥三治は自分の良田や正田区を代替地に提供し、端田や悪い水田をすすんで自分のものとした。国では、この2年前の明治32(1899)年によようやく「耕地整理法」ができたばかりであった。弥三治は、わが国の耕地整理の先覚者の一人であった。大正6(1917)年病没、59歳であった。大正9(1920)年、新堀の旧安養寺墓地に弥三治を追慕する人々によって、大きな墓碑が建立された。

(柴田静夫他 2000『浅羽町史』より)



案内図



戸塚弥三治墓碑(安養寺あと)